

## 注文票

注文FAX 048-432-7335			
氏名:	住所:	電話:	FAX:
	〒		
新書版 150頁		注文数	
予価: 本体 1300円+税		部	
2004年10月7日発行			
<p>日本僑報社刊行した主な書籍</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『中国のインターネットにおける対日言論分析』</li> <li>『日中「新思考」とは何か』</li> <li>『中日関係に対する戦略的新思考』</li> <li>『対日新思考』論議の批判的検討』</li> <li>『中国人特派員が書いた日本』</li> <li>『永遠の隣人 -- 人民日報に見る日本人』</li> <li>『日中相互理解とメディアの役割』</li> <li>『日中ホンネで大討論!』</li> <li>『中国人の見た日本』</li> <li>『日本華僑華人社会の変遷』</li> <li>『中国人の日本奮闘記』</li> <li>『中国の1万2967人に聞きました。』</li> <li>『私が出会った日本兵』</li> <li>『つくる会の歴史教科書を斬る』</li> <li>『新中国に貢献した日本人たち』</li> </ul>			

# アジアカップ・サッカー騒ぎはなぜ起きたのか

## —その真相・背景・今後を考える—

東京新聞論説委員垂水健一・毎日新聞中国総局長上村幸治・中国国際放送局記者王小燕 共著



**垂水健一（たるみ・けんいち）**一九三九年大阪市生まれ。六五年大阪市立大文学部中国学科卒業、同年中日新聞社（東京新聞）入社。八一年から九五年までの間に香港支局、上海支局、北京支局で勤務。北京支局から帰国した九五年から東京本社論説委員、九八年から大東文化大外国語学部、二〇〇一年から慶応大経済学部非常勤講師も兼務。著書に「現代中国を知る100のキーワード」（駿河台出版社）、共著に「現代中国を知るための60章」（明石書店）など。



**上村幸治（かみむら・こうじ）**一九五八年鹿児島生まれ。大阪外国語大学を卒業、毎日新聞社に入社。香港、北京、ニューヨーク特派員、ニューヨーク支局長などを経て〇三年から現職。八九年の天安門事件と、〇一年の9.11米国同時多発テロを現場で取材した。著書『台湾 アジアの夢の物語』（新潮社）でアジア太平洋賞特別賞を受賞。他の著書に『中国路地裏物語—市場経済の光と影』（岩波新書）や『中国権力核心』（文藝春秋）、『香港狂騒曲』（岩波書店）など。



**王小燕（Wang Xiaoyan）**一九七三年中国安徽省生まれ。北方工業大学日本語学科、北京日本学研究中心を経て、九九年四月、中国国際放送局（MM1044、SW7、190、<http://www.chinabroadcast.cn/>）に入局。以来、中国の音楽や少数民族を紹介する番組などを担当。二〇〇四大相撲中国公演など数多くの中日交流の場で通訳と翻訳を担当。月刊レポート「つばめの中国便り」を<http://www1.u-netsurf.ne.jp/bdk/>で掲載。共訳書に《如果我是日本首相》（中国当代世界出版社）など。

日本僑報社刊行 ISBN 4-931490-97-2 C0036

日中両国のジャーナリストが、それぞれの角度から深く掘り下げて分析し、その真相を究明するため緊急出版した初めての一冊。

### 【内容紹介】

アジアカップ・サッカー騒ぎについて、日本のメディアは大量の報道・評論を掲載した。騒ぎはなぜ起きたのか、その背景と今後を考えて、三人のジャーナリストが執筆した。それぞれの立場、それぞれの角度から深く掘り下げて分析し、緊急出版した一冊である。

**垂水健一・東京新聞論説委員**は、斬新な視点から、騒ぎはなぜ起きたかを考えている。また騒ぎがどのようなものであったかを日本の新聞の報道に沿って振り返り、さらにこの問題についての日本の新聞の社説の紹介などを加え、騒ぎの問題点をまとめている。

**上村幸治・毎日新聞中国総局長**は、北京の現場から、特に中国のメディアの報道から「サッカー反日と靖国」をタイトルに、中国側の問題点、日本側の問題点を分析し、アジアカップ・サッカー騒ぎの背景と日中関係の今後を考えた力作である。

**王小燕・中国国際放送局記者**は、「中国人サポーターは何に注目していたか？ 中国人サポーターは何に怒っていたか、中国人サポーターによる騒ぎの実態、マスメディアの特性を改めて見直す。ハンド疑惑の実態」を小見出しに、現場の様子を細かくまとめた。注目のルポ。